あすなろの木

光明中だより
編集者：上田薫
No.10号
平成30年9月3日

2学期がスタート

さあ、今学期も燃えていこう！！

＜2学期のスタートに際し＞

44日間の夏休みが終わり、2学期が始まりました。みんな、充実した、いい「夏」を過ごせましたか！

今学期は、「文化発表会（9/21：金）」「体育大会（10/6：土）」「合唱コンクール（10/30：火）」等、大きな行事が相次ぎます。私も初めて体験する本校の行事をとても楽しみにしています。さらに、2年生は「職場体験」、3年生は自らの「進路選択」と、これからの自分自身の在り方を考え、見つめる「大切な時間（とき）」を迎えます。この2学期も、君たち一人ひとりにとって、活気に満ちあふれた学期となることを願っています。

＜2018「夏の思い出」、仲間との「絆」＞

今年の暑さは、「これまで誰もが経験したことのない異常な状況にある」と、新聞やテレビで報じられる事態が続いています。そんな厳しい中で、3年生にとっては集大成となる県中学校総合体育大会（県総体）が開かれました。

そこで、私の応援追っかけは、7/21（土）の女子ソフトテニス部団体から始まりました。その日の午後からは野球部、翌日（7/22）が男子ソフトテニス部団体と女子バスケットボール部、7/23（月）は男子バスケットボール部、バレーボール部、男子ソフトテニス部団体決勝リーグでした。7/24（火）は、サッカー部と女子バスケットボール部と、連日、走り回りました。競技日、時間帯が重なり合うため、全ての試合を応援することが出来ませんでした。

どの競技会場でも、気迫あふれるプレーやきりっとした表情、聞こえてくる選手や応援する仲間や保護者の声・拍手…。全てが胸熱くなるものばかりでした。そんな中から、特に印象的だった二つの場面を紹介します

一つ目は、女子ソフトテニス部、3年生女子選手のチーム仲間への献身的（けんしんてき：自分の事を顧みず心身ともに捧げるほど他のために尽くすさま）に支える様子です。ゲーム中の合間（あいま）の度（たび）に、ベンチで先生からの指示を聞く選手の背後から「チームのかけ声」をかけながら必死にタオルを上下に扇ぎ（あおぎ）、風を送り続けていました。このような様子は他のチームや他の競技でも見られる光景ではありますが、この時のその選手の姿（声やしぐさ）から「一緒になって戦っている」という強い気持ちが、私の心にグヮーッと伝わってきたのです。

もう一つは、野球部1年生3名の姿です。この3名は、私や保護者の方々が応援している球場観客席のすぐ前にいて、グラウンドからは少し離れたところからでしたが、攻撃の時も、守備の時も、試合をする選手と一緒に立ち上がり、ずっと絶え間なく声をかけ続けていました。このような「心」があって「チーム」ができているのだと実感できる姿でした。

この話の子どもたち（3年生女子ソフトテニス部と野球部1年生3名）から、「当たり前のことですから」と言われてしまいそうですが、いずれも本当に自然体で、心が備わっている様は、みんなに伝えずにいられないと思いました。

もちろん、この子どもたち以外に、仲間同士の、あるいは保護者の方々からの熱い応援や励ましの声など、一緒に戦う姿をたくさん目にしました。いずれも、「チーム」にとってかけがえのないものばかりです。そして、このような「力」によって支えられているのだということを、改めて感じ取らなければならないと強く思いました。

8月に入って、ソフトテニス個人戦で、近畿大会の応援に行けました。3年生と1年生の姉妹ペアが県予選を勝ち抜き、近畿大会へのキップを手にしてくれました。

また、8/24（金）の台風20号が接近した日、卓球競技で全国大会の檜舞台に立つことができた、1年生女子選手の役員として広島まで出向く